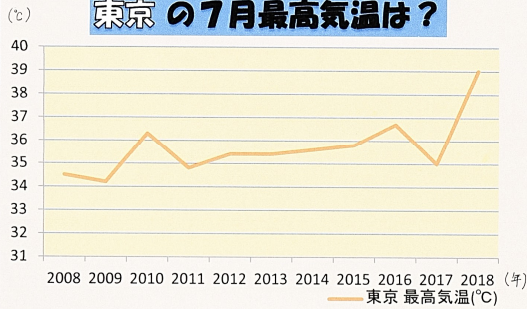
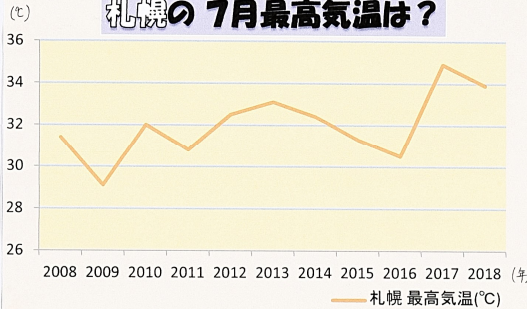


異常気象 東京五輪は大丈夫？

東京の7月最高気温は？



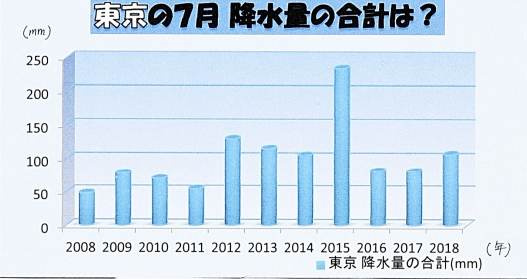
札幌の7月最高気温は？



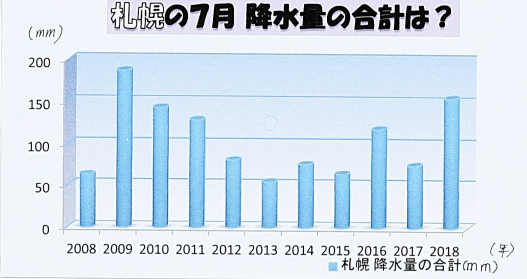
日本中が心待ちにしている2020年東京オリンピック、パラリンピックですが、日本の猛暑が懸念されています。気象面から日本の現状を知りたいと考え、グラフにしました。

競技が開催される全国から4都道府県を選び、それらの開催地の最高気温と、降水量をグラフにしました。最高気温は開催予定日である7/24に合わせて10年間分の7月最高気温のデータを使用しました。降水量も同様の理由で7月にしました。

東京の7月降水量の合計は？



札幌の7月降水量の合計は？



東京の7月最高気温は2008年からここ10年間で4.5度も上昇している。

東京の7月降水量の合計は最高気温に比べるとさほど変化はないが、2015年に前年の2倍以上になっている。その年を除くと100mm前後を保っている。

札幌の7月最高気温は2016年を境に「じくぞく」になっている。札幌の7月降水量は2013年を境に右肩上がりになっている。

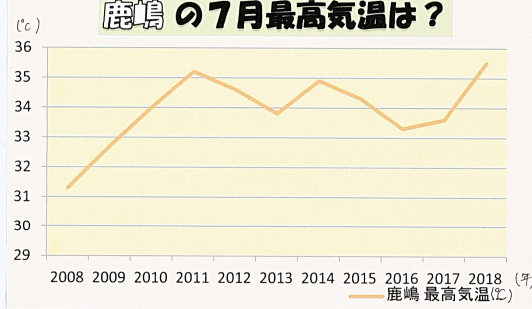
鹿島の7月最高気温は2008年から2011年にかけて上昇し、その後も33°C~35°C台を保っている。

鹿島の7月降水量の合計は2014年にピークを迎え、その後低下している。

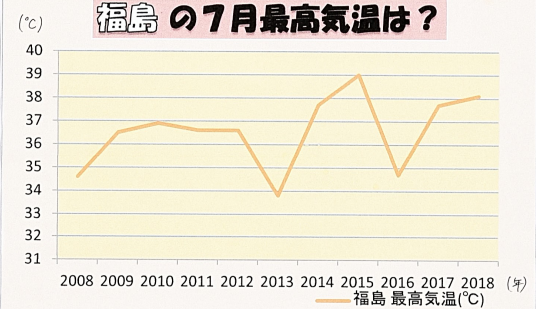
福島の7月最高気温は毎年変動しているが、2017年、2018年で上昇してきている。

福島の7月降水量の合計は2013年、2017年に増えたものの2018年は少ない。

鹿島の7月最高気温は？



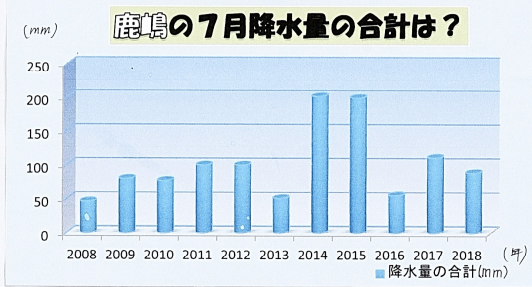
福島の7月最高気温は？



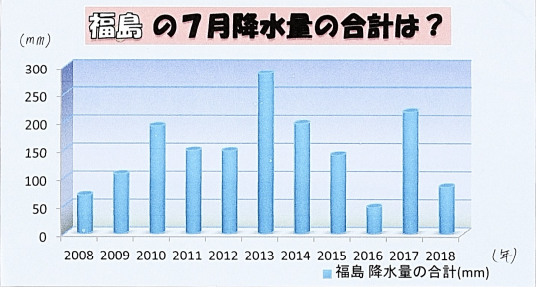
4つの都道府県の8つのグラフを通してみると、それぞれの7月最高気温は、10年前と比べて上昇していることが分かった。

また、7月降水量の合計は、変動はしているものの、必ずしも10年前から増え続けているわけではなかった。災害が起きるなどの異例な年は他の年よりも多かった。

鹿島の7月降水量の合計は？

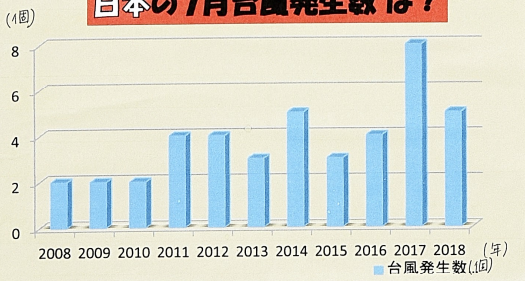


福島の7月降水量の合計は？



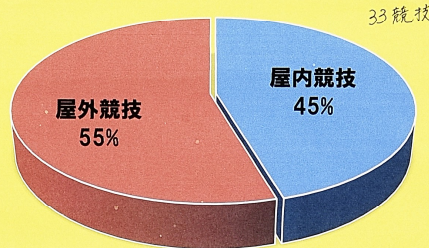
日本に発生した台風の数を見ると、2008年は2個だったのに対し、2018年には5個に増えている。2017年は8個と特に多かった。

日本の7月台風発生数は？



東京オリンピックで開催される33競技(種目として分けると、さらに数が増えるが、同じ競技であればルールが似ているため、競技で一括りにした)を調査した結果、屋外競技が55%と半数以上を占めていた。屋外競技会場全てに屋根が付いているわけではないため天候に左右される競技も出てくると考えた。

天気に左右される可能性のある競技は？



私は、異常気象として東京五輪に影響するのは降水量だと思っていましたが、実際にデータを見てみると、降水量は年によって大きく変動することが分かりました。しかし、最高気温は年々格段に上昇していて、台風発生数も増えていて驚きました。この東京五輪は、選手のみならず、ボランティアの人たちや、外国からの観客も携わる大規模なイベントなので、安全対策は欠かせない問題だと改めて感じました。なによりも猛暑に備え、安全な大会にするために、万全な暑さ対策は欠かせないと実感しました。また、ゲリラ豪雨なども増える今、半数以上を占める屋外競技での悪天候の場合、こういった対策ができるかが東京五輪を成功させるカギとなり、これからの日本の大きな課題の一つだと思います。